星屑は今でも霄を漂う

夜嵐水龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
星屑は今でも霄を漂う

【Ｎコード】
Ｎ１６２８Ｆ

【作者名】
夜嵐水龍

【あらすじ】
小話になりきれていない小説ばかりを集めた激短編集。肉付けすれば小説になれるものばかりですが、激短編として私は扱っております。どれをどの順番で読んで頂いても大丈夫です。読んでいただけると、幸いです。また、物によってはグロテスクな表現を含むものもあると思います。あらかじめご了承ください。

DOG－狗－

それは、裏切り者――――――――――――――

「この狗野郎が！！」
「うっ…がぁ！」
多くの男が、黒髪で短髪の青年を押さえつけ、痛めつけていた。
青年は、血だらけで所々腫れている。
そして、その青年と男達の前には、椅子にどっぷりと座ったスーツ姿の長髪の男が一人。
その隣には、黒いサングラスをかけたスーツ姿のスキンヘッドの男がそれを見ていた。
「はぁ。駄目ですよ。そんなに痛めつけちゃぁ。」
長髪の男は、まるで幼い子供に言いつけるように、そう言った。
隣のスキンヘッドの男は、何も言わずに、ただ其処に立っていた。
「でも、東條さん。この狗野郎が――――」
「もちろん。狗を放って置くわけではありませんよ。狗は悪い子ですからねぇ。」
一人の男が文句を付けると、長髪の男――――東條はそれを遮り、ニッコリと笑った。
その笑顔は、その場にあったもの全てを凍りつけてしまうような冷たい笑みであった。
いい例に、その場にいた青年以外の動きが止まった。
「何か言いたそうですね、ワンちゃん。」
東條は、自分を恐れなかった青年を見て、馬鹿にしたようにそう言

った。
狗と呼ばれている青年は、それを聞いて薄っすらと笑みを浮かべた。
「バーカ。」
青年は、下がっていた顔を上げ、笑い飛ばしてそう言った。
そう言った瞬間、東條から頭に蹴りが入った。
その勢いで、青年の頭は、コンクリートの床に打ち付けられる。
東條はしゃがみ込むと、青年の髪を鷲掴みにし、頭を持ち上げた。
青年の頭からは、血が流れている。
「あまり、人を馬鹿にしないほうがいいと思いますよ。狗の分際で。
どうして狗になっちゃったんでしょうねぇ？」
「どうしてでしょうね。」
東條の質問に、青年は馬鹿にしてそう言った。
東條の笑顔は、消えなかった。
むしろ、纏う冷気は強くなっていた。
青年を捉えていた男たちがヒィッと声を上げた。
「私たちに楯突いた罪は重いんですよ？裏切り者さん。」
東條はそう言って、銃の引き金を引いた。

ＤＯＧ－狗－（後書き）

～後書き（という名の謝礼と謝罪と説明）～

この度は、夜嵐水龍の作品を読んでいただき、誠にありがとうございました。

感謝です。（土下座）

誤字・脱字パラダイスだと思いますが、気にせず、スルーしていただけると嬉しいです。

狗って言うのは、裏切り者って意味です。

最後に東條のセリフがそうなっていますね。

英和辞書で“ＤＯＧ”という単語を調べると、意味の中に“密告者・裏切り者”というものが乗っています。

元ネタは、作者の好きな漫画からでした。

漫画の空きの所に、ラフ画が乗っているのですが、其処にこの単語の意味が書いてあって、そうだ、小説を書こう！（そうだ、京〇へ行こう！みたいな）という気持ちになったので、書いてみました。

主人公（青年）の名前が出てきてない――というより、東條以外名前が出てきていないという状況……。すみません。（土下座）

だって、激短編だったんだもん！！（何この人…）

とにかく、ここまでお付き合いありがとうございました。

REVERSE－裏面－

それは裏面――――――――――――

「ねぇ兄貴。次は何やるの？」
茶髪の長髪を後ろの下で一本にまとめている少女が、そう言った。
見た目からして、１７、８歳だろう。
「何？昨日仕事が終わったばっかりなのに、もう行くの？」
兄貴と呼ばれた黒髪で短髪の男は、軽い口調でそう訊いた。
年齢は、２１、２歳だろう。
どうやらこの２人は、本当の兄妹のようだ。
「あったりまえじゃん！！あんな仕事簡単すぎるよ。で、次の仕事は？」
少女は目を輝かせながら、そう訊いた。
男は、はぁと軽く溜め息をついてから、パソコンを見た。
「美術館から１枚絵を盗ってくる依頼と、ある人の暗殺の依頼があるけど、どっちがいい？」
男は、右手にコーヒーの入ったマグカップを持ちながら、そう言った。
少女は、うーんと少し唸ってから、いつものと言った。
すると男は、はいはいと言って、コインを１枚取り出した。
“いつもの”とは、仕事の依頼が２つあるときは、コインの表と裏で決めるのだ。
男は左手でコインを上に弾き、右手の甲で、パンと受け止めた。
「どっちだと思う？」

訊いたところで、どうにかなるわけでもないのだが、男はあえて少女にそう訊いた。
少女は迷うことなく、「裏」と答えた。
男が乗せていた左手をどかすと、コインは裏面で、其処にあった。
「正解。」
男はニヤリと笑い、そう言った。
「それじゃあ、行きましょうかね。親父の暗殺に。」
軽々といった兄の言葉に、妹は先程よりも笑っていた。

REVERSE－裏面－（後書き）

～後書き（という名の謝礼と謝罪と説明）～

この度は、夜嵐水龍の作品を読んでいただき、誠にありがとうございました。

感謝です！（土下座）

誤字・脱字がたくさんあると思いますが、スルーしていただけると、嬉しいです。

REVERSEって言うのは、逆・裏返し・反対などという意味がありますが、私が今回使ったのは、裏面って言う意味です。

実は、コインなどの裏面って書いてあるんですが、私としては裏社会といった感じで書いてみました。

最近、このような激短編を書くのにハマっています。

友達に、肉付けすればもっと長くなるのに…と言われましたが、私としてはここまでいいと思っています。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1628f/

星屑は今でも霄を漂う

2010年10月28日08時34分発行